

『アルバトロス』が 可能にした クォリティーの高い コース管理

「ゴルフ場セミナー」
2021年2月発行

キーパーのスキルアップと地位の向上にも寄与

ゴルフコース管理支援システム『アルバトロス』は九州域内だけでなくすでに30コース近くが導入。なかでもいち早く採用に踏み切った長崎国際ゴルフ倶楽部では、管理スタッフのスキルの向上、ひいてはコース評価の向上に大きく寄与しているという。キーパーの中村志郎氏に、『アルバトロス』が持つポテンシャルについて聞いた。

スタッフの指導・育成に 大きな力を発揮

九州には、名門と呼ぶにふさわしく、歴史があつて会員の質も高く、またコースも隅々まで管理が行き届いたクラブがいくつもある。しかもコーライグリーンのクォリティーの高さでは日本でも指折りのコースが多く、長崎国際ゴルフ倶楽部（長崎県諫早市）もそのひとつだ。コースの設計は、後年、東の井上（誠一）に対して、西の上田の評価を不動のものにした上田治。1964年の開場以来半世紀以上にわたって、長崎県を代表するクラブとしての格式を維持してきた。

とはいえ、必ずしも順調に発展してきたわけではなく、とりわけコース管理の面では多少の苦難も経



〈PR〉



長崎国際ゴルフ倶楽部 管理事務所キーパー 中村志郎氏

験している。近年でいえば、大きな要因のひとつは、多くのクラブ同様人手不足だった。

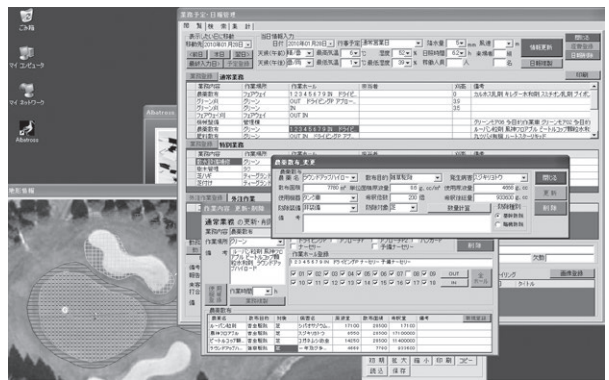
「私がキーパーに就いたのは11年前ですが、当時、総支配人から真つ先に言われたのは、『サブキーパーを育てよ』ということでした。万が一お前がいなくなったらコースの管理ができなくなってしまうので、いつでも代わりができるように日頃からサブキーパーを育てておけ、ということですが、それ以上に決定的な問題は人手不足でした」（同倶楽部コース管理事務所キーパー・中村志郎氏）

当時、コース管理のスタッフは4

人しかいなかった。それではとても手が回らないので外部スタッフの力を借りたりしていたが、日々の作業に追われて後継者を育てられるような状況ではなかった。

「自分の傍においてじっくり指導する余裕などまったくなかった。そんな折り、原田信彦総支配人から『こんなシステムがあるんだけど』と教えられたのが『アルバトロス』だったので、とりあえずトライしてみることにしました」

『アルバトロス』は㈱インフォニアが開発したゴルフコース管理支援システムで、コース管理の「効率化」、



日報入力画面の一例。
業務を理解できスキルアップにつながるだけでなく、情報共有にも役立つ

「見える化」を可能にしたことで多くのコース管理者から注目されている。

「朝のミーティングで、今日の作業について指示を出すのですが、そうすると指示されたほうはそれをこなすのが精いっぱい、翌日はまた新たな作業があり、前日にどんな作業をしたかなど振り返っている余裕はない。たとえば誰がどんな薬剤を、当たりどのくらい使ったのか、本人以外まったく知らないといったこともある」

キーパーというのは、全体を見て回さないといけないので、こんな状況ではとても1人前には育っていかないといいのだ。

「でも、『アルバトロス』の日報を利用すると、毎日、コース管理全体の作業内容を入力するので、コースを管理するということはどんな作業があるのか、どんな薬剤や肥料があるのか、そしてそれをどのくらい使った方がいいのかなど具体的に覚えていく。また、どんな作業に何日かかったかというスケジューリング管理も自然に覚えていく。これは大きいですね」

このようにスタッフ個々のスキルアップにつながり、ムダな作業が省け効率が大幅に向上したという。

「今はサブキーパーとして私の下に2人のスタッフを置いていますが、それぞれが日々のデータ入力だけでなく、過去のデータをチェックすることで、自然と次にするべき作業の具体的なイメージができるようになってきた。そういう意味でも、とても助かっていて、限られた人員でコース全体のクォリティーを維持していくには欠かせないツールですね」



中村志郎キーパーと打ち合わせする『アルバトロス』開発者のインフォニア(株)代表取締役 中村太郎氏
現場からの要望には迅速に対応してくれる

スキルアップとともに キーパーの地位の向上へ

中村氏は、『アルバトロス』はキーパーとしての誇り、とりわけコイライグリーンの評価を保ち向上させていく上でも大きな力になっているという。

「『コイライは、ちょっとね……』と言われるのが一番カチンときますね。ペンには絶対負けられん、という気持ちでやっています。幸いにも九州では芥屋（ゴルフ倶楽部）などがトーナメントコースとしていいグリーンをつくっていて、それが宣伝にもなっているので、我々もあそこを目標に日々作業をしています」

コイライグリーンの管理の難しさは、一度失敗したら回復には2年、3年とかかってしまうことだ。そのため中村氏は、芥屋の他、門司ゴルフ倶楽部、小郡カンツリー倶楽部、宮崎カントリークラブなどのキーパー

「たちと」コイライグリーン研究会をつくって情報交換し、時にはお互いのコースを訪れ、状況を確認している。特に近年のように異常な気象が頻発すると、『アルバトロス』で積み上げたデータや近隣コースとの情報交換がますます重要になるという。「もう『例年通り』というのが通用しなくなっている。年に二度も梅雨があるような状況で、コイライにとっては非常に厳しい。それに対応していくには他のコースとの情報交換が欠かせないし、管理スタッフ全員のスキルをさらに上げていかなければならない。そのためにも『アルバトロス』に期待するところは大きいですね」

スタッフそれぞれのスキルが上がれば、ひいてはキーパーの評価自体を高めることにもつながる。実際、コースの状態をよく知る古くからの会員の間からは、「最近よくなったね」という声がかかるようになったそうだ。

中村氏はまた、競技の誘致にも積極的で、年に一度は九州ゴルフ連盟主催競技の決勝大会を開催したいと考えている。狙いはコース全体のレベルアップ、キーパーのスキルアップ、さらにはキーパーの誇りを確立することにあり。

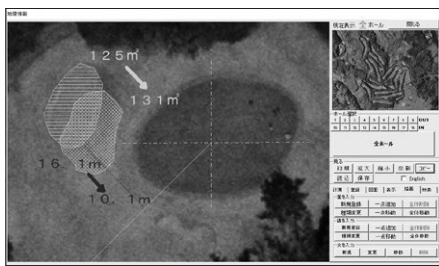
「やっぱり大会用のコースセッティングとなると普段と違うわけで、スタッフのモチベーションも上がるし、自信にもなる。その意味でもこれからはどんどん大会を開催してくれるようハウス側にアピールしています」

アルバトロスの活用範囲はさらに広がる

中村氏は自ら重機を使ってレディ用のティイグランドを造ったりもするが、それでも『アルバトロス』に期待している。「たとえばコース委員会に対して、

このバンカーを工事しますといったことを説明するときは俯瞰で見られるのでわかりやすいし、ティイグランドを新設するとかグリーンを改造するといったときもすぐく力になつてくれそうですね。全体の機能から見れば、まだ十分の一も活かしていないかもしれせん。でも、知れば知るほど活用範囲が広がりますね」

コロナ禍や気候の劇的な変動などにより、コース管理を取り巻く環境は大きく変わってきている。こうした状況の中では、『アルバトロス』が持つさまざまな機能に寄せられる期待はますます高まりそうだ。



航空写真を用いた管理画面でコース全体を確認できる。文字やデータを書き込むことも可能

新サービス開始に伴い、製品内容と価格の改定を実施
キーパーアシストツール

『アルバトロス』 **大幅プライスダウン**

初期費用 198万円(+2.5万円/月)

➔80万円(+2.5万円/月)

【問い合わせ先】インフォニア 株式会社

〒810-0001 福岡市中央区天神4-1-18 サンビル4F

☎092-707-3215 FAX 092-707-3216

WEB <https://www.inform-near.com/>